

米国防長官「ウクライナ領土回復は非現実的」

ヘグセス米国防長官は2月12日、ブリュッセルで開かれたウクライナ問題の「国防連絡グループ」会合で演説し、ウクライナの NATO 非加盟と領土回復の要求は非現実的だとして支持しない考えを表明、和平交渉にあたってのロシアの要求を基本的に受け入れる姿勢を強調した。またウクライナの防衛は欧州と非 NATO 諸国が担うべきだとも指摘、米軍は覇権しないと断言した。ウクライナ支援を続けてきたバイデン政権の政策を百八十度転換するもので、欧州各国に衝撃が走っている。以下はこの態度表明をした開会演説の全文。（編集部）

ピーター・ヘグセス国防長官

2025年2月12日 ベルギー、ブリュッセルで（米国防総省 HP）

<https://www.defense.gov/News/Speeches/Speech/Article/4064113/opening-remarks-by-secretary-of-defense-pete-hegseth-at-ukraine-defense-contact/>

こんにちは。ヒーリー長官、UDCG の開催と現在の主導の両面で、そのリーダーシップに感謝いたします。今回はじめてウクライナ国防連絡グループに参加させていただきます。本日、皆様とご一緒できることを光栄に思います。ウクライナ戦争に対するトランプ大統領のアプローチについてお話しできる機会を感謝いたします。

私たちは、ヘイリー長官が言われたように、重大な局面に立たされています。戦争が3周年を迎えようとしている今、**私たちのメッセージは明確です。流血を止め、この戦争を終わらせなければなりません。**トランプ大統領は、米国民に対して、そして多くの諸国の指導者に対して、戦闘を止め、永続的な平和を達成することが最優先事項であると明確に述べています。

彼は、外交によって、そしてロシアとウクライナの両国を交渉のテーブルにつかせることによって、この戦争を終わらせるつもりです。そして、米国国防総省は、この目標の達成を支援します。

同盟国の力を戦場の現実的な評価と組み合わせることによってのみ、この破壊的な戦争を終わらせ、永続的な平和を確立することができます。我々も皆さんと同じように、主権があり、繁栄したウクライナを望んでいます。しかし、2014年以前のウクライナの国境に戻すことは非現実的な目標であることを認識することから始めなければなりません。幻想的な目標を追い求めることは、戦争を長引かせ、さらなる苦しみを引き起こすだけです。

ウクライナにとっての持続可能な平和には、戦争が再び始まらないことを確実にする強固な安全保障の保証が含まれなければなりません。ミンスク合意のバージョン 3.0 であってはなりません。

とはいえ、米国はウクライナの NATO 加盟が交渉による解決の現実的な結果であるとは考えていません。その代わりに、いかなる安全保障の保証も、有能な欧州および欧州以外の軍隊によって裏付けられなければなりません。

もしこれらの部隊がいずれかの時点でウクライナに平和維持部隊として派遣される場合、それらは NATO 以外のミッションの一環として派遣されるべきです。そして、それらは第 5 条の適用対象とすべきではありません。また、接触ラインには強固な国際監視体制を敷く必要があります。

はっきりさせておきたいのですが、いかなる安全保障保証の一部としてでも、ウクライナに米軍が派遣されることはありません。

さらに効果的な外交を実現し、ロシアの軍事力に資金を提供しているエネルギー価格を引き下げするため、トランプ大統領は米国のエネルギー生産を解放し、他の国々にも同様の措置を促しています。エネルギー価格の低下と、より効果的なエネルギー制裁の実施を組み合わせることで、ロシアを交渉のテーブルにつかせるのに役立つでしょう。

欧州の安全保障を確保することは、NATOの欧州加盟国にとって必須事項です。この一環として、欧州は将来、ウクライナへの死活的な支援および非死活的な支援の圧倒的多数を提供しなければなりません。このコンタクトグループのメンバーは、今こそ行動を起こさなければなりません。

具体的には、より多くの弾薬や装備を寄付すること、比較優位性を活用すること、防衛産業基盤を拡大することです。そして、重要なのは、ヨーロッパが直面している脅威について、自国の市民に正直に伝えることです。

その一環として、この脅威に対処するには防衛費を増やすしかないことを、自国民に率直に伝える必要があります。2%では十分ではなく、トランプ大統領は5%を求めており、私もそれに賛成です。

自国の安全保障への取り組みを強化することは、将来への前払い金です。長官がおっしゃったように、強さによる平和です。

また、きょうは、米国がヨーロッパの安全保障に主に焦点を当てることを妨げる厳しい戦略的現実を、直接かつ明確に表明するためにここに来ました。米国は、自国が重大な脅威に直面しています。私たちは、自国の国境の安全保障に焦点を当てる必要があります。そして、実際に焦点を当てています。

また、インド太平洋地域におけるわが国の国土と国益の核心を脅かす能力と意図を持つ、共産中国の同等の競争相手にも直面しています。米国は太平洋における中国との戦争抑止を優先し、不足という現実を認識し、抑止が失敗しないよう資源のトレードオフを行っています。

抑止は、我々全員のために、失敗してはならないのです。米国がこれらの脅威に優先的に注意を払う中、欧州の同盟国は率先して対応しなければなりません。共に協力し、欧州と太平洋地域でそれぞれ比較優位性を最大限に活かせるような役割分担を確立できるでしょう。

トランプ大統領の指揮の下、国防長官に就任してからの数週間で、欧州がこの脅威を認識し、何をすべきかを理解し、その課題に積極的に取り組もうとしているという有望な兆候が見られました。

例えば、スウェーデンは最近、過去最大の支援パッケージを発表しました。弾薬やその他の必要な物資に 12 億ドルを拠出すると表明したことを称賛します。

ポーランドはすでに GDP の 5% を防衛費に充てており、これは欧州の模範となるものです。また、14 カ国が能力連合を共同主導しています。これらのグループは、欧州による 8 つの主要能力分野における死活的な支援の調整に多大な貢献をしています。

これらは第一歩です。まだやるべきことはたくさんあります。私は、各国がこれまでに表明した公約の履行を強化するよう求めます。

そして、ウクライナの当面の安全保障上のニーズだけでなく、欧州の長期にわたる防衛と抑止の目標にも、より一層力を注ぎ、再公約することを、各国およびその国民に求めます。

大西洋を挟んだ我々の同盟関係は何十年にもわたって続いてきました。そして、今後も何世代にもわたって維持されるものと確信しています。しかし、これはただ起こるものではありません。

欧州の同盟国が主導権を握り、欧州大陸における通常安全保障の責任を担うことが必要です。米国は引き続き、NATO 同盟および欧州との防衛協力関係にコミットしていきます。しかし、米国はもはや、依存を助長する不均衡な関係を容認することはできません。むしろ、米国と欧州の関係は、欧州が自らの安全保障に責任を持つことを優先するでしょう。

今後は、誠実さを政策の指針とします。ただし、あくまでも連帯の精神においてです。トランプ大統領は、共に協力し、友人同士の率直な議論を続け、共に力を合わせて平和を実現することを楽しみにしています。

(了)

【翻訳チェック 田中靖宏】